



医療従事者マーク一式を手に入れる事が出来ます。

お問い合わせ窓口は、各機関の窓口または各機関のHPをご覧ください。また、各機関のHPにて、各機関の窓口や連絡先が記載されています。お問い合わせ窓口は、各機関の窓口または各機関のHPをご覧ください。また、各機関のHPにて、各機関の窓口や連絡先が記載されています。

問い合わせ
窓口

赤ちゃんの
健康を
守るための

生後2ヶ月からの ワクチンデビュー



イマドキの
生まれたての赤ちゃんは、
とっても多忙です！
その理由は…



赤ちゃんの 予防接種 スケジュールは とても忙しい

赤ちゃんは生まれてすぐに、予防接種という大切なイベントを控えています。予防接種はワクチンを使って、病気の予防や症状を軽くするために「免疫」をつけるもので、「病気にかかる前に接種しておくこと」がいちばんのポイントです。でも、ワクチンはたくさんあるし、下の図のように予定もびっしり。赤ちゃんの予防接種スケジュールは、生後2か月からとても忙しいスケジュールになっています。

ワクチン	生直後	6週	2ヶ月齢	3ヶ月齢	4ヶ月齢	5ヶ月齢	6ヶ月齢	備考
インフルエンザ菌b型(ヒブ)			1回目	2回目	3回目			1歳を過ぎたら4回目も忘れずに
肺炎球菌(PCV13)			1回目	2回目	3回目			1歳を過ぎたら4回目も忘れずに
B型肝炎(HBV)	定期接種		1回目	2回目				3回目は7~8ヵ月に(対象は0歳児のみ)
	母子感染予防							健康保険での接種時期(0,1,6ヵ月)
ロタウイルス	1価*		1回目	2回目				1回目は出生14週6日までに受けましょう
	5価*		1回目	2回目	3回目			
4種混合(DPT-IPV)または3種混合(DPT)とポリオ(IPV)			1回目	2回目	3回目			1歳を過ぎたら4回目も忘れずに
BCG							1回	推奨期間は7ヵ月まで 定期接種は1歳まで

■ 定期接種の推奨期間

■ 定期接種の接種可能な期間

■ 健康保険での接種時期

*いずれか1種類を接種

日本小児科学会ホームページ(2023年4月1日版)を参考に作成

予防接種は、 なんと半年間で最大で14~15回も



ワクチンにはいくつかのタイプがあります。赤ちゃんを病気から守るために、何回も接種が必要なワクチンが少なくありません。たとえば、生後6ヵ月までに接種が望まれる定期接種のワクチンには、4種混合(DPT-IPV)ワクチン、BCG、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン、B型肝炎ワクチン、ロタウイルスワクチンがあります。これらを別々に接種すると、最大で14~15回も接種が必要になるのです。しかも、ワクチンの接種後は何日かあいだを空ける必要があるタイプもあるので、その日数も計算すると実はあまり時間に余裕がないのです。

赤ちゃんを 「生後2ヵ月からワクチンデビュー」 させよう



それでは、多くの予防接種をきちんと受けるためには、どうしたらよいのでしょうか?それには早めに計画をたてて、赤ちゃんを「生後2ヵ月からワクチンデビュー」させることがポイントです。できるだけ早く予防接種を始めれば早くから病気を予防できるだけでなく、スケジュールにも余裕が出てきます。生後2ヵ月からワクチンデビューをするには、1ヵ月健診の頃に計画を立てるのがひとつの目安になります。また、効率よく予防接種を行う方法として、いくつかのワクチンをまとめて接種する「同時接種」という方法もあります。